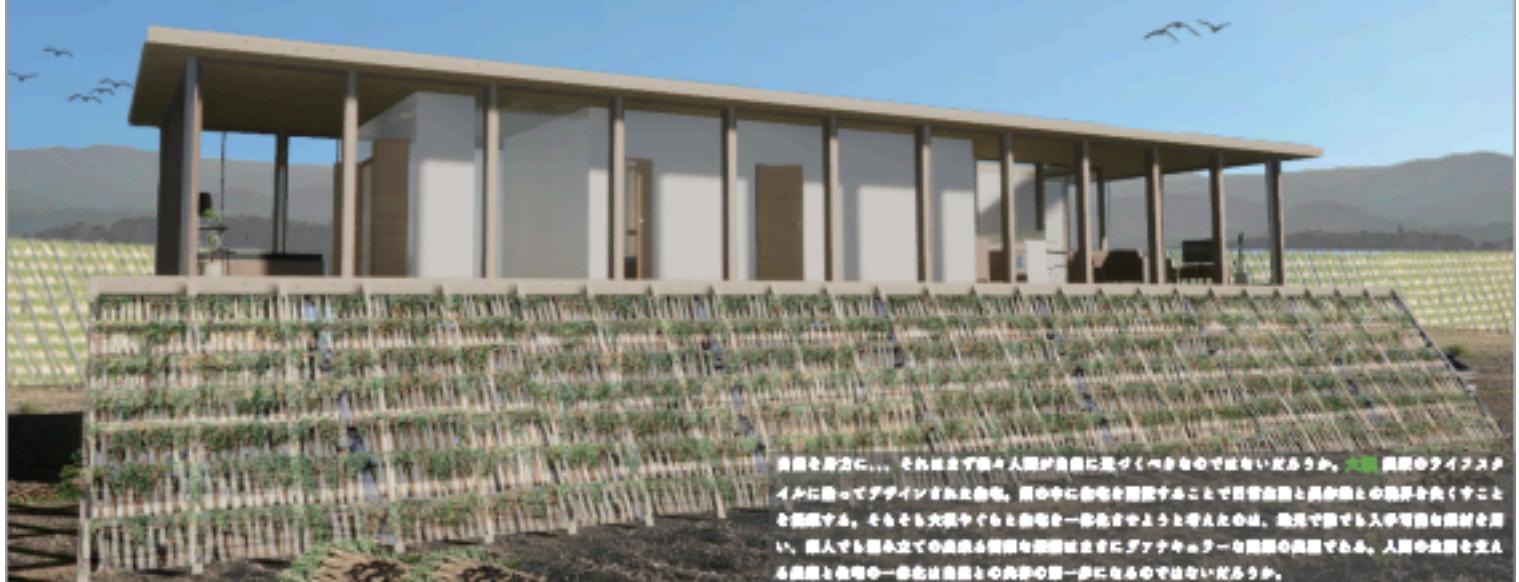


大根のヴァナキュラー

宮崎県田野町に広がる大根やぐら。その中で暮らす大根農家のための新しい「農業×住宅」の提案。



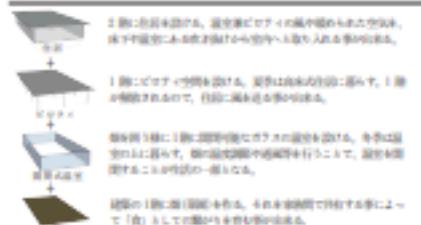
01. 土地

その土地だからこそ生まれた生産を活かした暮らし。



02. 植物の計画

温室の上に住居を積層させることで省エネルギーな生活を送る。

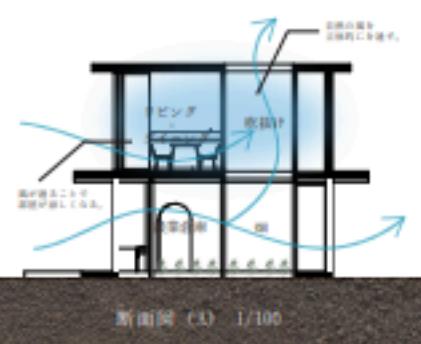


03. 風と暮らし

大根と風、人と風。



田野町は阿蘇山と青井岳に囲まれた盆地になっている。夏季はアーン風によって西側から風が吹いて熱気を逃すことで涼しい風となる。冬季では、田野町の北側の方まである大根やぐらが風を遮っている。やぐらに向かって風が吹いており、開けたから排水された風が吹き出している。夏季では、人と風が快適に暮らすことができる。冬季では、大根と風が快適に暮らしている。風や土地、自然などの恵みに囲まれたものである。



断面図 (A) 1/100

農業を暮らしに...、それほど大根の人間が農業に没すべき心地はないだろうか。大根農家のライフスタイルに沿ってデザインされた住宅。田の中に住宅を開拓することで日常生活と農耕生活との境界をなくすことを実現する。そもそも大根やぐらと住宅を一体化させようと考えたのは、農業で開拓された入手法を活用する、個人でも組み立ての高さも簡単な構造はまさにヴァナキュラーな空間の開拓である。人間の生活を支える農業と生活の一歩化は農業との共生の第一歩になるのではないかだろうか。

04. 大根農家の生活

大根で暮らし、大根と暮らす。



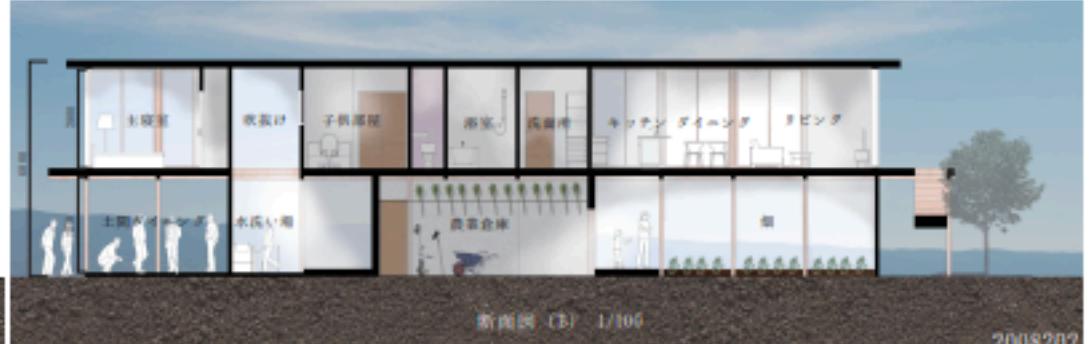
この地域では大根の収穫期の中や冬の寒い季節が開けたり、販売をすることで収益を得ている。やはり大根を育てるための手間ではなく、栽培技術を磨くだけでもいい。今後は収穫では大根の収穫が確実化する一方で、生産性の向上が求められる。これができるようになっている。

05. やぐら×住宅×温室

季節に合わせて使い方が変わるやぐらの提案。

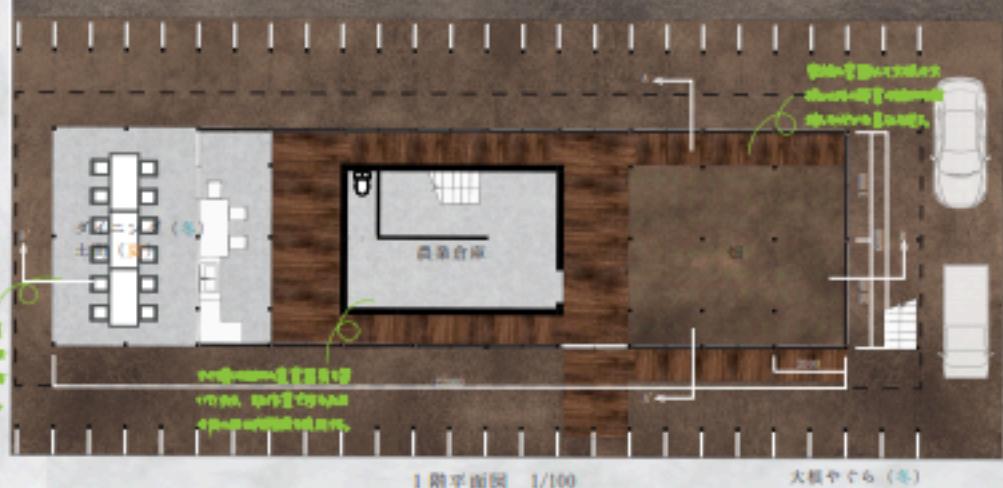


冬季では、周りの緑地を活用するように外間にやぐらを持つこと。それにしても、屋内はあくまで快適である。その空間で地域の農業以上の収益がない、バリアレスなスペースを実現する。1階のガゼン部屋のガラス戸を開めることで風を逃す。夏季は自然の風による暮らしをすることができる。2階に吹き抜けや通し風を造る事で、開放感を強調する。心地よい、快適な空間である。



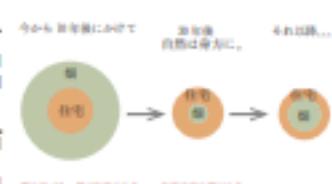
断面図 (B) 1/100

面積表
敷地面積 230 平米
建築面積 200 平米
1階床面積 96 平米
2階床面積 104 平米
延べ床面積 200 平米
建ぺい率 60%
容積率 60%
家庭構成 夫婦(35)息子(7)



06. 時間の流れ

烟の中に住宅があるから自然を感じる。



植物や風。地域の特徴の風景を見ることや感じることで時間の流れやナラティブ的で連續的なものを感じている。今回の設計では、住宅に大根やぐらがることで、暮らすだけで季節や自然を感じられる。また、大根の成長過程や仕事内容によっても感じられる。また、この図例では夏季と冬季で独特な風が吹いており、この風を住室内に取り込むことでも季節や自然を感じられる。

住居を樹の内部に得ていくことで自然に近づけ、農業と住居の一體化を目指す。10年後仕事暮らしや家族となり樹は成長へと変化する。そして30年後子供も孫も、身元も資本農業は仕事から趣味へと変わっていき、樹は小さくなり住居内へ。それ以降壊れなくなった部屋や場所は樹に変わり続ける。やがて自然は身方になる。

07. 生活環境

気候と季節、広がる間取り。そこから生まれる暮らしの変化。



夏季では、居室の休息スペースや階段などの間に家族が利用するスペースとしての機能。冬季には大根やぐらが設置され、隣のあるスペースが広がる。そこで、隣の方ともが意見交換や集合、食事会などをを行うためのダイニングとして利用される。それ以外にも、農作業を行う陽明になる。スペースが代わることで季節を感じられるようになる。

夏季では、部屋を開放するために窓を開放することで風が抜け、外で涼しく過ごせるように外部に一箇所テラスが回っており、外で過ごすことができる。それにより、リビング・ダイニングが大きく広がるような提案である。冬季では、一部部分が開閉式になっているからこそ、二部屋部分は閉まることと一緒に上の対比としてプライベートな空間を提供する。

